

東京学芸大学国語教育学会
2022年度第4回例会のご案内

東京では、梅雨の時期の少雨を取り戻すかのように、秋雨が続く毎日です。会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。スポーツの秋、食欲の秋、研究の秋を迎え、第4回の例会のご案内をすることになりました。今回の例会では、実践報告2本のご発表があります。多くの先生方にご出席いただき、活発な議論や学び合いを生み出していきたいと思っております。会員の皆様のご協力どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 上田真也〔東京学芸大学附属大泉小学校〕

研究主題 思考力・想像力を育てる言葉の学び

日時 2022年10月8日(土) 14:00~16:10

会場 ZOOM 会議室 (オンライン)

ミーティング ID 860 2376 6386

セキュリティパスコード V4xZKe

<https://us06web.zoom.us/j/86023766386?pwd=b08ydThPZEVPeTJCVXpNOEorNnBFZz09>

時程 14:00~

開会

14:10~15:00

実践報告①

「国語単元学習における一人一台端末活用の可能性
—小学校2年生「たんぼぼのちえ」の実践より—
東京学芸大学附属小金井小学校 大村幸子 先生

15:10~16:00

実践報告②

「インプロ・ゲーム『わたしは木です』(教育出版5年上)
の教育的意義とは」足立区立桜花小学校 神永裕昭 先生

16:00~16:10

事務連絡 閉会

実践報告①

「国語単元学習における一人一台端末活用の可能性—小学校2年生「たんぼぼのちえ」の実践より—

東京学芸大学附属小金井小学校 大村幸子 先生

GIGA スクール構想によって、端末を常時一人一台活用する、「占有状態」(中川, 2022,p.10)が実現しました。端末を連続して手元におき、文房具として日常的に活用できるようになったわけですが、一方で、その活用を子どもに委ねるのは不安であるという教師の声をよく聞きます。授業中に、「端末を出して」「しまつて」と、使用を制限する場面も見かけます。確かに、端末を文房具として教育現場に位置付けることは、多様な学びの姿とともに、教師の想定を超える事態を引き受ける覚悟が必要です。しかし、その先にこそ、学習者主体の深い学びの実現があるのではないのでしょうか。

本発表では、国語単元学習における一人一台端末活用の可能性について、小学校2年生「たんぼぼのちえ」の実践における子どもの姿を通して考えていきたいと思っております。ご指導よろしくお願いいたします。

実践報告②

「インプロ・ゲーム『わたしは木です』(教育出版5年上)の教育的意義とは」

足立区立桜花小学校 神永裕昭 先生

現行の小学校の国語の教科書では、光村図書出版と教育出版の2社が、2年生から6年生の各学年で国語の授業開きにゲームの活動を取り入れた「話すこと・聞くこと」の学習を位置付けている。しかし、このような活動が「話すこと・聞くこと」領域にとってどのような学習に繋がるのか意味を見出せないという声がある。

教育出版5年上の教科書に掲載されている「わたしは木です」というゲームはインプロのゲームである。本発表では、「わたしは木です」のゲームに焦点化し、「わたしは木です」の分析を通して、教室で実践する教育的意義について検討する。

参加費 無料

※学会員の方は年会費(一般3000円、学生2000円)をいただきます。

※年会費の納入方法につきましては、別途お知らせしています。

- ・本学会は、国語科教育に関心をお持ちの方ならばどなたでも入会できます。
- ・本学会に関するお問い合わせは、学会事務局(東京学芸大学附属大泉小学校・上田真也 ueshin@u-gakugei.ac.jp)までお願いいたします。
- ・第5回例会は、11月5日(土)にオンライン(zoom 会議室)にて行います。